

2022年度 第1学年 国語科 指導内容・評価規準

担当(菅井 智恵子)

<1学年の重点指導目標>

- ① 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- ② 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。
- ③ 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

NAVIMA 使用予定

月	学習事項	学習活動	時数	評価規準
4 月 5 月	朝のリレー	詩を読み、想像したことや好きな言葉や表現を交流する。詩の特徴を生かして音読する。	1	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。 【態】音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。
	言葉に出会うために 野原はうたう	国語を学ぶ意味や言葉の価値を考える。 詩を読み、情景や心情を想像しながら、速さ、声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを変えて音読する。	1	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。 【態】音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。
	声を届ける 書き留める 続けてみよう	話す速度や音量、調子や間の取り方に気をつけながら、場に合わせて話す。 ノートの書き方、工夫の仕方を理解する。	4	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。 【態】音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして声を届けようとしている。 【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。
	シンシュン	場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて描写を基に捉える。 読み深めた感想を交流する。	4	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思・判・表】「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。 【態】場面の展開について、描写を基に積極的に捉え、学習課題に沿って感想を交流しようとしている。
	情報を的確に聞き取る	情報を的確に聞き取るための効果的なメモの取り方を確かめる。連絡を開き、メモを取る。	1	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。 ・「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。 【態】進んで記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、学習課題に沿ってメモを取ろうとしている。
	節のしおり 春	桜にまつわる言葉や、春の情景を詠んだ歌詞や詩、短歌、俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。	1	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。

	情報整理のレッスン 比較・分類	情報を比較・分類する方法を確かめ、整理する。	1	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。 【態】学習課題に沿って、積極的に情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使おうとしている。
	情報を整理して書こう わかりやすく説明する	目的や相手を明確にして題材を決め、情報を集め、整理する。構成を考え、文章をまとめる。	4	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。 【態】集めた材料を粘り強く整理し、学習の見通しをもってわかりやすく説明しようとしている。
	漢字1 漢字の組み立てと部首	漢字の組み立てに興味をもち、篇旁冠脚、部首の種類について理解する。	1	【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。
	ダイコンは大きな根	段落の役割に着目しながら、事実と意見を読み分け、文章の内容を捉える。	2	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。 【態】文章の中心的な部分と付加的な部分について積極的に捉え、学習課題に沿って筆者の工夫を伝え合おうとしている。
	ちょっと立ち止まって	文章と図の関連や段落と段落の関係に注意して文章の構成を捉える。 筆者の考えを基に、自分のものの見方や考え方を広げる。考えたことを伝え合う。	3	【知・技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。 【態】進んで要旨を把握し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。
6 月	思考のレッスン1 意見と根拠	説得力のある根拠について考える。意見と根拠の結び付きを考える。	1	【知・技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 【態】学習課題に沿って、積極的に意見と根拠の関係について理解しようとしている。
	話の構成を工夫しよう 「好きなもの」をスピーチで紹介する	話の構成や順序を工夫し、自分の伝えたいことを整理し、相手の反応を踏まえながら紹介する。	4	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えている。 【態】話の構成を粘り強く考え、学習の見通しをもってスピーチをしようとしている。
	漢字に親しもう2	新出漢字を確認し、練習問題に取り組む。	1	【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。
	文法への扉1 言葉のまとまりを考えよう	言葉の単位とその働きについて理解する。	2	【知・技】単語の類別について理解している。 【態】単語の類別を理解するために、今までの学習を生かして、積極的にその前提となる言葉の単位について理解しようとしている。
	情報を集めよう 情報を読み取ろう 情報を引用しよう	集めたい情報について収集の方法を考え、さまざまな文章から、必要な情報を取捨選択する。	3	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の

				<p>中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。</p> <p>・「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。</p> <p>【態】引用のしかたや出典の示し方について積極的に理解を深め、学習課題に沿ってそれらを使おうとしている。</p>
7 月	詩の世界	<p>詩を読んで、語句の意味を的確に捉え、内容を理解する。</p> <p>詩の表現の特徴を捉えて読み、描かれた情景を想像する。</p>	2	<p>【知・技】</p> <p>・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。</p> <p>・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。</p> <p>【態】文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって詩を創作しようとしている。</p>
	比喩で広がる言葉の世界	<p>段落の役割を抑えて読み、内容を捉える。</p> <p>言葉について考える。</p>	2	<p>【知・技】比喩などの表現の技法を理解し使っている。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。</p> <p>【態】進んで要旨を把握し、学習課題に沿って言葉について考えを深めようとしている。</p>
	指示する語句と接続する語句	<p>指示する語句について理解する。</p> <p>指示する語句について理解する。学習したことを日常につなぐ。</p>	2	<p>【知・技】指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。</p> <p>【態】今までの学習を生かして、積極的に指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めようとしている。</p>
	言葉を集めよう もっと「伝わる」表現をみざして	<p>観点を決めて、多くの言葉を集め、その言葉を使って日常生活を題材とした紹介文を書く。</p>	1	<p>【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>【態】今までの学習を生かして、積極的に事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使おうとしている。</p>
	読書を楽しむ	<p>さまざまな読書活動を知り、夏休みに行う活動を選ぶ。</p>	1	<p>【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。</p> <p>【態】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを進んで理解し、今までの学習を生かして本の魅力や感想を伝え合おうとしている。</p>
	本の中の中学生 あと少し、もう少し 西の 魔女が死んだ ブラインド の向こうに見える光 読書案内 本の世界を広げ よう 読書コラム 本との 出会い	<p>さまざまな作品を読み、ものの見方や考え方を広げる。</p> <p>学校図書館などを利用して、「本の中の中学生」というテーマで一冊選び、推薦文を書く。</p>	1	<p>【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。</p> <p>【態】文章を読んで理解したことに基づいて、積極的に自分の考えを確かなものにし、学習課題に沿って本を読んで考えたことを伝え合おうとしている。</p>
	季節のしおり 夏	<p>風にまつわる言葉や夏の情景を詠んだ詩、俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。</p>	1	<p>【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。</p>

9月	大人になれなかった弟たちに……	登場人物の行動や情景描写などに着目し、心情を捉える。 表現の特徴や時代背景を押さえ、題名や標記に込められた作者の思いを捉える。思いを伝える朗読会をする。	4	【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。 【態】登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習の見通しをもって朗読しようとしている。
	星の花が降るころに	場面の展開に沿って「私」の気持ちの変化をとらえる。さまざまな表現技法がどのような情景や気持ちを表しているか読み取る。印象に残った場面や描写を語り合う。	5	【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈している。 【態】進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈し、学習の見通しをもって考えを伝え合おうとしている。
	聞き上手になろう 質問で話を引き出す	要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめる。	1	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。 【態】進んで記録したり質問したりしながら、話の内容を捉え、今までの学習を生かして話を引き出そうとしている。
	項目を立てて書こう わかりやすい案内文を書く	課題文を推敲し、読みやすくわかりやすい文章にする観点を押さえる。	2	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。 【態】集めた材料を積極的に整理し、学習課題に沿って案内文を書こうとしている。
	【推敲】読み手の立場に立つ	読み手の立場に立って、案内文を推敲する。きかえた案内文について、伝えようとする内容が正確に、わかりやすく書き表されているか、友達と話し合う。	1	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思・判・表】「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えている。 【態】粘り強く文章を整え、学習課題に沿って案内文を推敲しようとしている。
10月	言葉2 方言と共通語	方言と共通語のそれぞれの役割や特徴について理解する。	2	【知・技】共通語と方言の果たす役割について理解している。 【態】今までの学習を生かして、積極的に共通語と方言の果たす役割について理解しようとしている。
	漢字2 漢字の音訓	漢字の音と訓について、その性質や歴史について理解する。	1	【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
	「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ	文章の構成と内容を捉える。 論の展開に着目し、その効果を考える。 結論に説得力をもたせるために、どのような工夫をしているか、本文の記述や図表などを根拠として、自分の考えを文章にまとめる	4	【知・技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。 【態】文章の構成や展開について粘り強く考え、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。

	思考のレッスン2 原因と結果	例文から原因と結果を抜き出し、つながりを整理する。原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解する。	1	【知・技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 【態】今までの学習を生かして、積極的に原因と結果の関係について理解しようとしている。
	根拠を示して説明しよう 資料を引用してレポートを書く	課題を決め、調査を行う。調査結果を整理し、構成を考える。図表などを引用してレポートを作成する。レポートを読み、評価し合う。	5	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 【態】文章の構成や展開を粘り強く考え、学習の見通しをもってレポートを作成しようとしている。
	漢字に親しもう3	新出漢字を確認する。	1	【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。
	[話し合い] 話し合いの展開を捉える	話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめる。	1	【知・技】意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。 【態】進んで話題の展開を捉え、学習課題に沿って話し合いにおける発言のしかたについて考えようとしている。
11月	話題や展開を捉えて話し合おう グループ・ディスカッションをする	話し合いの話題を決め、目的を明確にする。自分の考えをまとめる。話題や展開を捉えながらグループで話し合い、結果を報告し合う。	4	【知・技】意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。 【態】積極的に互いの発言を結び付けて考えをまとめ、学習の見通しをもってグループ・ディスカッションをしようとしている。
	音読を楽しもう 大阿蘇	言葉の響きやリズムを味わいながら朗読する。	1	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 【態】進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
	季節のしおり 秋	月にまつわる言葉や、秋の情景を詠んだ俳句や和歌、小説の一説を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。	1	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
	音読を楽しもう いろは歌	「いろは歌」を仮名遣いに注意して音読する。古文の言葉の響きや調子に読み慣れる。	1	【知・技】音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。 【態】古典にはさまざまな種類の作品があることを積極的に知り、今までの学習を生かして古文を音読しようとしている。

	蓬萊の玉の枝 —「竹取物語」から	語句に注意しながら、古典の文章の表現の特徴を知る。 仮名遣いに注意し、古典のリズムを味わいながら音読し、古典の文章に読み慣れる。	4	【知・技】音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。 【思・判・表】「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。 【態】進んで古文を音読し、学習課題に沿って描かれている古典の世界を想像しようとしている。
	今に生きる言葉 故事成語	書き下し文を現代語訳を参考にしながら読み、故事の内容を理解する。 自身の生活を振り返り、故事成語を使った体験文を書く。	2	【知・技】音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。 【態】積極的に漢文を音読し、今までの学習を生かして故事成語を使った文章を書こうとしている。
12	「不便」の価値を見つめ直す 【書く】根拠を明確にして、意見をまとめよう	本文を読み、筆者の考えを要約する。根拠を明確にして、自分の意見をまとめる。	4	【知・技】 ・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。 ・「書くこと」において、根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 【態】積極的に必要な情報に着目して要約し、自分の考えを文章にまとめようとしている。
	助言を自分の文章に生かそう 作品の書評を書く	作品を選び、内容や魅力を分析する。どの観点から論じるかを決め、書評を書く。友達どうして書評を読み、助言し合う。	2	【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。 【思・判・表】「書くこと」において、根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。 【態】読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を進んで見だし、学習課題に沿って書評を書き、助言し合おうとしている。
	漢字に親しもう4	新出漢字を確認する。	1	【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。
	文法への扉2 言葉の関係を考えよう	文節どうしの関係、連文節、文の組み立てについて理解する。	2	【知・技】単語の類別について理解している。 【態】単語の類別を理解するために、今までの学習を生かして、積極的にその前提となる文の組み立てについて理解しようとしている。
	考える人になろう 君たちはどう生きるか たのしい制約 読書案内	文章を読み、筆者のものの見方や考え方を捉える。考えたことをグループで発表し合う。	1	【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。 【態】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを積極的に理解し、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。

	季節のしおり 冬	雪にまつわる言葉や、冬の情景を詠んだ詩や俳句、文章の一説を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。	1	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
1月	少年の日の思い出 [書く]別の人物の視点から文章を書き換えよう	場面展開や人物の描写に注意して作品を読み、登場人物の心情の移り変わりを捉える。 文脈の中における語句の意味を正確に捉えて作品を読み、登場人物のものの見方や考え方について、自分の考えをもつ。 主人公以外の人物の視点で作品を書き換え、互いに読んで感想や意見を交流する。	6	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 ・「書くこと」において書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。 【態】文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって別の人物の視点から文章を書き換えようとしている。
	漢字に親しもう5	新出漢字を確認する。	1	【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。
	文法への扉3 単語の性質を見つけよう	単語の類別について理解する。	2	【知・技】単語の類別について理解している。 【態】今までの学習を生かして、積極的に単語の類別について理解しようとしている。
	随筆二編	作品を読み、語句や表現の工夫に着目する。筆者の思いについて話し合う。	2	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思・判・表】「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈している。 【態】進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈し、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。
2月	構成や描写を工夫して書こう 体験を基に随筆を書く	随筆の題材を選び、具体的な材料を書き出し、構成を考える。言葉を吟味して随筆を書く。	4	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 【態】粘り強く文章の構成や展開を考え、学習の見通しをもって随筆を書こうとしている。
	言葉3 さまざまな表現技法	「言葉の並べ方の工夫」を読み、表現技法によるリズムの違いや効果について考える。	4	【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。 【態】積極的に比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し、学習課題に沿ってそれらを使おうとしている。
	漢字3 漢字の成り立ち 漢字に親しもう6	漢字の成り立ちについて理解する。 ここまで学習した漢字を読んだり書いたりする。	1	【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。

3月	一年間の学びを振り返ろう 要点をフリップにまとめ、 発表する	観点を決め、一年間の学習を振り返る。 集めた情報を整理し、発表内容を決める。 話の構成を考え、フリップを作り、グルー プ内で発表する。	5	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、 引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それら を使っている。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえな がら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫 している。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活 の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを 明確にしている。 【態】集めた材料を積極的に整理し、今までの学習を生かし て要点をフリップにまとめ、発表しようとしている。
3月	さくらの はなびら	詩を読み、印象に残った表現を発表する。 表現の意味を考え、作者の思いについて語 り合おう。	1	【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を 理解し使っている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解した ことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。 【態】文章を読んで理解したことに基づいて、積極的に自分 の考えを確かなものにし、考えたことを伝え合おうとしてい る。
	学習を振り返ろう	比較や分類、関係づけなどの情報の整理の しかた、引用のしかたや出典の示し方につ いて理解を深め、それらを使う。	3	【知・技】 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用の しかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っ ている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部 分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要 旨を把握している。 ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえな がら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫 している。 ・「書くこと」において、根拠を明確にしなが、自分の考 えが伝わる文章になるように工夫している。 【態】今までの学習を生かして、それぞれの学習課題に粘り 強く取り組もうとしている。

<補充教材（発展的内容）の取り扱い>

単元教材の合間や学期の終わりに短く浅く広く触れることで、興味関心をもたせる。
後に、個人が興味をもって深めていけるように動機付けをする。
また、教材をより理解するために補充的な教材を使用する。
年間で20時間、書写（毛筆、硬筆）の授業を実施する。

<評価の方法>

観点1（知識・技能）：小テスト、授業の課題プリント、定期考査
 観点2（思考・判断・表現）：発表・話し合い（スピーチ、プレゼンテーション、パネルディスカッション）・
 聞き取りテスト、作文（意見文、感想文、スピーチ原稿）、俳句、短歌、課題プリント、定期考査
 観点3（主体的に学習に取り組む態度）：提出物（ワーク、ノート、プリント等） 授業への取り組み 定期考査

<評定算出にあたっての重みづけ>

観点	観点1 知識・技能	観点2 思考・判断・表現	観点3 主体的に学習に取り組む態度
重みづけ	1	1	1